

国際化

International
Involvement

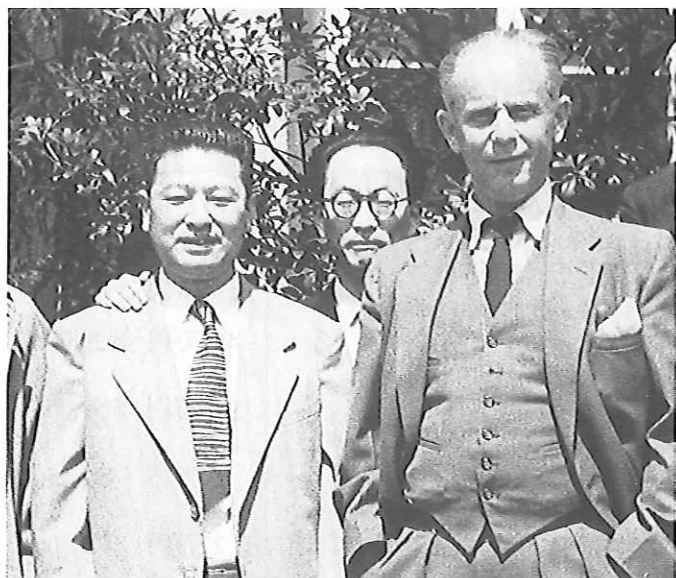
5

世界からのお客さま

Guests from Overseas

After the Japanese Chiropractic Association was established, it hosted many chiropractic guests from overseas. Yoneo and Kazuyoshi Takeyachi particularly emphasized the JCA's international involvement. Since 1971, the JCA has regularly sent tour groups overseas to get first hand information on chiropractic abroad.

April 1957 ストレス学説のハンス・セリエ博士



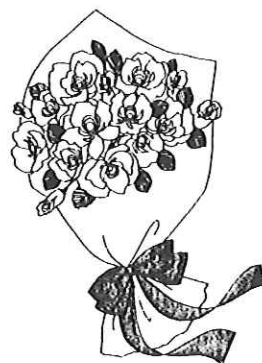
ストレス学説の創始者、ハンス・セリエ博士が東京カイロ訪問
From Lt to Rt: Y. Takeyachi, Dr. N. Fujii, Dr. Hans Selye

まだ戦後が残っていた1957年(昭和32年)、ストレスという言葉も知られていない時、モントリオール大学教授、国際ストレス研究所所長のハンス・セリエ博士がストレス理論紹介のため来日した。日本医師会が招待者であったが、その背景には杉靖三郎東京教育大学教授(42頁参照)、ストレス研究家で内科医(後に財団法人東京ストレス研究会理事長)藤井尚治氏の尽力があった。ハンス・セリエ博士は東大や北大など全国各地で講演。多忙な合間をさいて藤井先生は東京カイロ研究所へ同行し、セリエ博士は初めて竹谷内氏のカイロ治療を体験、カイロへの理解を深めた。

セリエ博士のストレス理論はその後急速に広まり、ストレスはいまや一般用語として定着。その背景にストレスの日本紹介に果たした藤井先生らの貢献は大きい。

左の写真は、セリエ博士が東京カイロを訪れた時の記念写真。

右から、セリエ博士、藤井尚治氏、竹谷内米雄氏。



1962 ハワイの長老カイロプラクター山本DC来訪



ハワイの日系長老・山本ドクター来日
From Lt to Rt: Mrs. Yamamoto, Dr. Yamamoto(1924 PSC Grad), Y. Takeyachi

August 1965 ACA研究部長ヒグレー氏訪日



Y. Takeyachi and R. Kishida welcome Dr. Henry Higley, ACA Director of Research

▲アメリカ・カイロプラクティック協会の研究部長・ロサンゼルス大学教授・ヘンリー・ヒグレー教授が来日。

◀総連主催のハワイカイロ界の日系長老・山本英雄ドクター来日歓迎の宴と記念講演会が池袋・白雲閣で行なわれた。

March 1967 オステオパスの訪問

Dr. Gedney, osteopathic physician visits Tokyo

シカゴ・オステオパシー・スクール卒で同校の教授をしている、Dr. ゲドニーと夫人の来日歓迎を開き、アメリカのカイロとオステオパスの違いなどを歓談。

1968 パーマー大学から2名の教授が訪れ歓迎の宴

Palmer Professors, V. Strang and R. Hildebrandt welcomed. Dr. Kanazawa(Rt. photo), 1920 Palmer Grad. joins the welcome

金沢 明先生
パーマー大学卒

パーマー大学・パーマー学長の親書を持って同大のストラング、ヒルデブランド両教授が訪日。総連幹部はパーマー大学卒の金沢督DCも交えて日米カイロの懇親を深めた。

June 1979 フェイ副学長、佐藤先生を訪問From Lt to Rt:Drs. L. Fay,
Executive Vice-President,
National College of
Chiropractic
A. Sato, K. TakeyachiPresident of Life College
Dr. Sid Williams visits
Dr. Takeyachi.

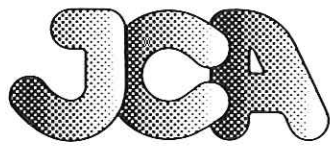
▲ナショナル・カイロ大学のフェイ副学長はオーストラリアの帰途来日、次のように述べた。米国のカイロを三つに分けるなら、第1段階は業として社会に生きる戦い、第2段階は教育の公認、第3段階は有効性を立証する研究で、いまは最後の第3段階にある。滞在中、フェイ副学長は佐藤昭夫博士を表敬訪問した。

October 1980 ライフ大学学長

▲ライフ大学のシド・ウィリアムス学長が訪問。学長は日本のカイロの将来に関心を示した。

アメリカ最大のカイロ団体・ACAのシェルビー・エリオット理事長が来日、JCAの竹谷内会長を訪れた。▼

October 1984 ICA系大学幹部来日Presidents of ICA colleges visit Tokyo
Japanese DC's held a welcome reception**Nov. 1984 ACAエリオット理事長**Dr. and Mrs. S. Elliott, Chairman of the Board of Governors,
American Chiropractic Association visits Dr. Takeyachi



海外ツアーの幕開け

JCA Overseas Tours: Seeing is Believing is the Theme

JCAは1971年に海外視察研修ツアーを開始し、99年現在11回を数える。「百聞は一見にしかず」の通り、海外の進んだカイロプラクティック教育事情や業務などホンモノを直接体験することで、日本でのカイロの将来を考えるねらいがあった。

最初の頃は好奇心が優先し、多くの学校見学や観光が重視

されたが、回を重ねるにつれカイロ大学での勉強やイベント参加、親善などに重点が移っていった。カイロ先進国を目の当たりにし、この企画は多くの人々のカイロ観を変えることになった。

第1回米国カイロ視察研修

1st JCA Overseas Tour July 1971 U.S.A.



JCAと科学新聞社共催の歴史的な第1回視察研修団61名は1971年7月、羽田空港を出発した。まだ海外旅行がめずらしい時代だった。出発式で竹谷内一恵団長は「いままでアメリカから講師を招いて4回の国際講座を開いた。今度はこちらから出向いて積極的な国際親善を図りたい」と語った。

第1回は多人数のため9日間（46名）と17日間（15名）の2つのグループに分けられ、訪問先はナショナル、パーマー、コロンビア学院、ロサンゼルス、4カイロ大学、スピーアーズ・カイロ病院、2つのクリニック訪問という盛沢山のスケジュールだった。各地で心暖まる歓迎を受け参加者は感激した。



No.	年 (Year)	国 (Countries)	参加者	訪問大学 (Colleges Visited)
1	1971	米国 (U.S.A.)	61	National, Palmer, Columbia, LACC
2	1973	米国 (U.S.A.)	30	LACC, National, Palmer, Columbia
3	1982	米国 (U.S.A.)	12	National, Palmer
4	1984	米国 (U.S.A.)	49	National
5	1986	米国 (U.S.A.)	28	CMCC, National
6	1988	豪州 (Australia)	23	World Chiropractic Congress
7	1993	英国 (England)	10	Anglo-European College of Chiropractic
8	1994	豪州 (Australia)	10	Royal Melbourne Institute of Technology
9	1995	米国 (U.S.A.)	26	Washington DC
10	1995	米国 (U.S.A.)	11	Palmer College of Chiropractic, Davenport
11	1999	豪州 (Australia)	20	Royal Melbourne Institute of Technology



▲上はシカゴ郊外の開業オフィス見学。各地で想像もしない心のこもった歓迎で迎えられた。空港への出迎え、テレビ報道、新聞取材、昼食会、おみやげ、夜の親善レセプションなどに参加者全員が感激。研修団は訪問地の新聞に取り上げられた。観光旅行が一般化する以前だった。



視察団にマスコミも大きな注目 Tour was widely published

第2回米国カイロ視察研修

2nd JCA Overseas Tour August 1973 U.S.A.



8月6日から23日までの米国カイロ視察に初めて参加させて頂きました。私にとってのアメリカは雄大でその風光明媚に驚かされました。まずロサンゼルス・カイロ大学と市内観光から始まりました。ナショナルでは大変心暖まる歓待を受け、素晴らしい一日を過ごすことが出来ました。ジェンシー学長のお話し、竹谷内会長の権威が強く感じられました。パーマー大学訪問では全く予期できぬことがありました。私たちの訪問が6チャンネル、夜10時からのテレビニュースで報道されたのです。予定にないコロンビアカイロ学院も訪れ、学生が快く案内してくれ、希望者には治療もしてくれました。市内で開業するカイロオフィスも3カ所訪問。カイロを志す者として、このアメリカ訪問は大変な励みとなりました。(角田恵一)

第3回米国カイロ視察研修

3rd JCA Overseas Tour May 1982 U.S.A.



1982年5月14～27日まで第3回米国カイロ視察に参加した。シカゴ到着の日、留学生の角野さん、吉良さん、そしてナショナル大学のホームカミングの開催されているホテルでジェンシー学長に出迎えられ、ホテルに一室に招かれ笑顔で一人一人固い握手をされ、大いに感動。その晩のパーティではステーツ先生、アルナルド、グローブ、メジアン先生にもお会いでき印象深い一夜でした。27歳で博士号を取った秀オスエンソン先生の解剖実習は熱がこもり、時間を延長して続けられた。国際的なリスティングやX線での短下肢の決定法の講義を興味深く聞き、テクニックのVTRを見て、さすが本場の学問に感心。ナショナルやパーマーを見学して、その内容や設備の素晴らしさに驚きました。カイロの将来は大いに期待できます。(小川繁蔵)

第4回米国カイロ視察研修

4th JCA Overseas Tour May 1984 U.S.A.

アルナルド学長の
自宅招待に感激



Dr. ジェンシーの心暖まる歓迎

ナショナルのホームカミングに参加



今回の研修は私にとって大きな意義がありました。まず第一にアルナルド学長始めナショナル大学教授たちが、私たちの手となり足となり献身的にお世話してくれたことです。これは会長はじめ先輩諸先生の長年の努力が実り、今回の歓迎に結びついたものと思ひ、心から感謝する次第です。第二に、ナショナルでの解剖実習でした。日常の診療で抱いていた疑問を、ローレンス先生がテクニック講義でスエンソン先生が解剖で説明してく

れました。初日、ローレンス先生が五十肩、変形性膝関節症、テニス肘等、診断治療方法を分かり易く教えて頂きとても参考になりました。(穴戸謙唯)

今回の研修は自分にとって新しい世界が開けた感じがします。ナショナル大学での勉強はまさにエキスを与えられたという感じで、先方のご好意がよく分かりました。JCAとナショナル大学との友好の絆は同窓会パーティ、アルナルド学長宅への招待にも如実にあらわれていま

した。私たち全員を自宅に招待して下さい、JCA会員から贈られたハッピーを着て、一家揃っての歓迎ぶりは、なかなか出来ないもので、私たちを感激させました。アルナルドご夫妻の広くて暖かい心が伝わって来ました。

いま静かに思い返すとき、あのような歓待を受けることができたJCA会員も立派な方々の集まりに違いないと。いまその中に自分がいることを大変幸せに思った次第です。(五百城啓太郎)



オフィス見学 Office Visit

アルナルド学長が団員を自宅に招待



アルナルド学長就任式に参加

JCA Members participate Dr. Arnold's in Presidential Inauguration

1984年5月に実施された第4回研修団には49名の参加者が集まった。

この時のホームカミングの際、Dr. アルナルドの学長就任式が行なわれた。日本の参加者もなじみ深いアルナルド先生の学長就任を大いに喜び、厳粛な式に再度感激した。

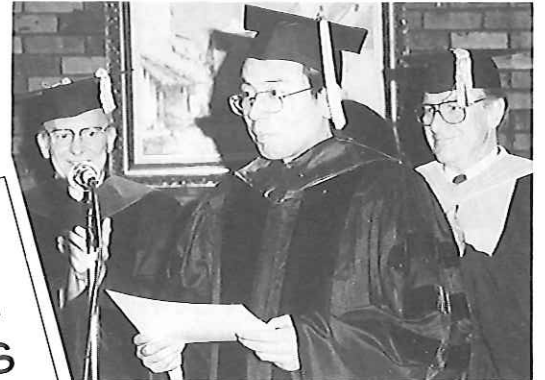
研修団のナショナルでの最終日、アルナルド学長がナショナル大学主催のお別れパーティを開いて下さった。長年、日米カイロの発展に尽くした功績を認め、JCAの竹谷内一恵会長に、ナショナルより名誉法学博士号が贈られ、アルナルド学長より参加者全員にセミナー修了証が手渡された。



ナショナル大学が竹谷内会長に名誉博士号授与

Honorary Doctor of Law Degree was conferred upon Dr. Kazuyoshi Takeyachi for his outstanding leadership and support for the college.

竹谷内会長がACAジャーナルに日本のカイロ紹介記事を投稿
1985年2月号



竹谷内一恵会長の感謝の言葉

Chiropractic Status in Japan: Slow But Steady Progress in the Land of the Rising Sun

An enlightening look at chiropractic and the advances it has made in one of the world's most progressive nations

By Kazuyoshi Takeyachi, D.C.
President, Japanese Chiropractic Association



Kazuyoshi Takeyachi, D.C.

Dr. Takeyachi graduated from National College of Chiropractic in 1968 with his doctor of chiropractic degree. He also has a B.S. degree in health education from the same college in 1969. Dr.

and the Japanese Chiropractic Association since 1969. He has held the presidency of the JCA since 1970. In 1968 he was awarded the Dr. Joseph Janse ACA Award from National College of Chiropractic and a Certificate of Appreciation from National College in 1971, 1978, 1981, and 1982. He was the recipient of the JCA's Outstanding Service Award in 1981 and was awarded an honorary doctor of laws degree from National College in 1984.

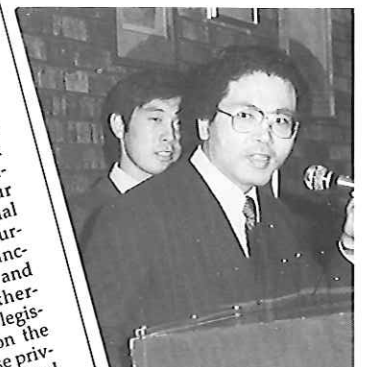
Introduction

Chiropractic is gaining widespread acceptance around the world. However, the status of chiropractic in Japan seems to be little known outside the country. Since I have been the president of the Japanese Chiropractic Association since 1970 and since my father was one of the pioneer chiropractic practitioners, I have had the privilege of observing the development of chiropractic in Japan over the years. This report is in-

was one of her top priorities, and ever since the government and medical society have had a close relationship. This is the historical background for the monopoly that medicine enjoys in the health-care system today. However, there is much debate among people concerning the strong political orientation of medicine today. In 1961 the Government Medical Insurance Plan, an all-inclusive compulsory program, was enacted with the cooperation of the medical society. However, because of large increases in medical costs, this program is now jeopardizing the budget. In addition to orthodox medicine and its various paramedical groups, there are four forms of recognized traditional therapies: bone-setting, massage, pressure therapy, and acupuncture. These are nonmedical and nonsurgical independent therapies. The fourth one is not legislated and is only certified on the basis of a grandfather's clause privilege. This relates to those limited elderly groups of practitioners who have in the past practiced such arts as light, electric, heat, and manipulative therapy. These are officially clas-



Dr. ジェンシーのスピーチ



村松仲朗理事長が英語で答礼のスピーチ

第5回米国カイロ視察研修

5th JCA Overseas Tour May 1986 CANADA, U.S.A.

初のカナダ
カイロ大学訪問

カナディアン・メモリアル大学訪問

Visit to the Canadian Memorial College



百聞は一見にしかずと言いますが、正にその通りだと思います。そして今回は夫婦で行けたことも一生の良き思い出となりました。前回参加のときはジェンシー先生が出迎えてくれましたが、残念ながら昨年亡くされました。

今回はアルナルド学長夫妻、スエンソン教授、リッチー夫妻、留学生の皆さんが前回にも増してお出迎えして下さいました。カイロプラクティックを教えて下さる先生方、私どもは学のが大変でしたが何とか患者の皆さんに喜んでもらえるようになりJCAに加入していて良かったと思っています。そしてカイロを通じて良き先生、友達にも巡り合うことが出

来て幸せです。

ニューヨークの夜景、自由の女神、雄大なカナダ、トロントのナイアガラの流れ、言葉には言い表わすことが出来ない程でした。ナショナルでも本当に意義深い勉強をさせてもらいました。広大な気持ちで今後も頑張ります。(大竹野力雄)

高いビルの林立するニューヨークからカナダへ。生水の飲めない米国から来てカナダでは飲み放題。またその生水のおいしかったこと。それに人がなごやかに見えた。それはカナディアン・メモリアル・カイロ大学の見学ですぐ証明された。親しげに学長が大学をすべて案内してから、心の休まる大学の裏にある木立に散

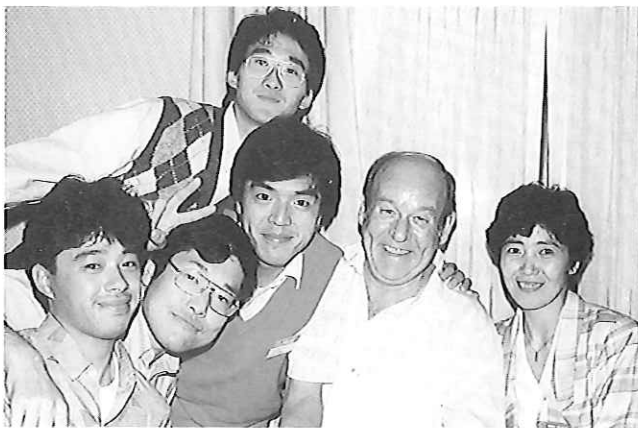
歩に連れて行って下さった。

ナショナルでは、前回アルナルド学長の就任式のあった思いでの会場が、今回はジェンシー先生の追悼式の会場だ。2年前誰がそんなことを予想出来たであろうか。ただ胸の奥がジーンとなり涙をおさえることが出来なかった。

ナショナル大学の研修は、自分で知りたいと思っていたテーマを主体に見聞したので大きな成果が得られました。オフィス見学も沢山あり非常に有意義でした。我々もただ羨ましがらるだけでは進歩がない。結局は一つ一つの研究と毎日の努力を積み重ねることが大切だとしみじみ感じた。(湯原一夫)



カナディアン・メモリアル大学図書館にJCAのカイロ学会誌を見つけた



アルナルド学長を囲んで楽しむ参加者
President Arnold Welcomes JCA Members



スエンソン先生も団員に大サービス
Dr. Swenson enjoys Japanese Visit

Dr. ジェンシー追悼式

Tribute to Dr. Joseph Janse, NCC May 1986



Joseph Janse, D.C.
(1909-1985)

1986年5月17日、ナショナル・カイロプラクティック大学ホールで、前年に亡くなったDr. ジェンシー前学長の追悼式が行なわれた。大勢の大学関係者、同窓生でうまった広い会場にはJCAツアーグループの28名も参列した。

追悼式は音楽演奏で始まり、追悼スピーチは次の順序に進んだ。大学理事会オーエンス理事長、同窓会代表ハウザー会長、大学代表バイドマン教授、ACA代表ホフマン理事、前副学長フェイ教授、最後にDr. ジェンシーの「国際的な役割」と題してJCAの竹谷内一恵会長がスピーチを行なった。

スピーチの中で、JCA会員はジェンシー先生への謝恩の気持ちから寄金を集めたので大学発展に使って頂きたい、と



One of the tribute speakers, Dr. K. Takeyachi
竹谷内一恵会長によるDr. ジェンシー追悼の辞

述ベアルナルド学長に手渡された時は、万雷の拍手が鳴りやまなかった。その時の英語スピーチは7月号、ACAジャーナルに掲載された（下に全文掲載）。

TRIBUTE TO DR. JANSE by Kazuyoshi Takeyachi, D.C., Japanese Chiropractic Association President

I was given only five minutes to talk, instead of five hours which I would really need to cover Dr. Joseph Janse's international role. He was a Dutchman originally and spent three years in Germany and Switzerland in his 20s. Consequently, he showed an extraordinary interest in chiropractic overseas. His influence and commitment in Europe, Africa, New Zealand and Australia is well known to you. So let me talk briefly about his association with chiropractic in Japan.

He was first invited to Japan in 1965 as the first authority ever to visit our country. His modern approach to chiropractic was a shocking experience to those who indulged in an empirical practice for years. Moreover, his devotion, his

love of people touched the hearts of our people. We were fortunate to have him visit five times despite his busy schedule. Besides his exceptional leadership and wisdom, surprisingly, he could read the minds of people. One time, I was about to resign my office because of frustration. He said, "Kazu, the easiest thing in the world is to give up." So here I still am.

While we still have many entrepreneurs, we cherish his words — "Chiropractic can only grow as a profession." His approach was nothing but an encouragement. Thanks to him, our standard of chiropractic is set, and our educational program is expanding. We even have established the research department and have started publishing scientific journals.

The man to whom we owe so much is no longer with us. I have a strong feeling that he has left assignments to each one of us. The question is, do we know what they are? One clue is that he was a man

of action and he devoted his life to the National College. Being a modest man, I do not think he would like to hear that we owe. Dr. Janse. Rather, he would like to hear that we owe the National College for what we are. For that reason, we, the members of the Japanese Chiropractic Association, raised contributions totaling \$13,000 to give to the college for a fund in memory of Dr. Janse. Over 300 people joined the fund raising effort and, on behalf of them, I would like to present the check to President Lee E. Arnold. I want my colleagues from Japan to stand and recognized for their support.

Lastly, this is an age of great complexity. No matter how able a single person may be, the system does not function at its best. Only good teamwork with dedicated people can move the college forward. Let me conclude by asking, "Are we ready for this era of new challenge?" ■

(ACA Journal of Chiropractic/July 1986)

第6回海外視察・世界カイロ大会参加(豪州)

6th JCA Overseas Tour July 1988 Sydney Australia



第6回海外研修はオーストラリアのシドニーで開かれたカイロ・コンGRESS'88への参加であった。世界カイロ連合創設を決めたこの大会で、日本はカイロの視野を広くもち、タコツボに安住する古い体質を変えねばならぬことを痛感した。世界がカイロプラクティックの共通のアイデンティティを確立しようとしているとき、日本だけがカイロを名乗りながら孤立出来るのだろうか。世界のカイロの流れが大きく変わりつつある中、日本はいかにしたら世界との差をちぢめることが出来るか。考えさせられることの多い研修ツアーであった。今回は国際会議のため、JCA招待で来日した多くの海外の先生方とも再会でき、楽しい出会いの旅になった。

第7回海外視察

7th JCA Overseas Tour May 1993 London

世界カイロ大会・AECC訪問(英国)



WFC大会会場の前で記念撮影

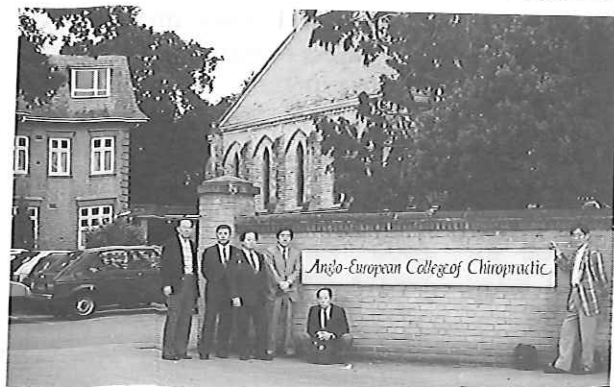


WFC大会のパーティに出席

JCA視察団11名は5月27～29日までロンドンで開かれたWFC・WHO共催の世界カイロプラクティック学術大会に参加。開会式にはグイアナ王妃の歓迎メ

ッセージやWHO保健部長のミキープ博士の挨拶があった。カイロと医学界のトップの研究者が集まり、国際的なカイロ研究熱を示す大会になった。視察団一向

はアングロヨーロッパカイロ大学を訪問。大学見学では、小規模ながら教育内容の充実さと研究に取り組む努力に感動。訪問では日英親善の会食を行なった。



Tour group visits Anglo-European College of Chiropractic



アングロ・ヨーロッパ大学校内見学

第8回海外視察・RMIT大学訪問 オーストラリア・ニュージーランド

その大きさに
びっくり

8th JCA Overseas Tour March 1994 Australia and New Zealand



シドニー経由でメルボルンに着いたのは昼過ぎだった。入国審査を済ませてロビーに着くと、驚いたことに札幌大会でお世話になったクレイハンス先生が迎えに来ている。「オー、シロー」とにこやかな笑顔で握手を求めてきた。私を覚えていてくれたことに感激。心は明日からの親善に夢を膨らませていた。

3月4日、RMITを訪問。一行10名はタクシーに分乗。団長を信頼して同乗した私たちは駐車場を間違え、後続の仲間とはぐれRMITの学内をウロウロ(でも色々なところを見学できましたが)、とにかく広いキャンパスで、足を棒にして探しても分かりません。途方にくれていると、これまた偶然、札幌大会と一緒に飲んだイングリッシュ先生が探しに来てくれて「Dr. シロー」と手を差し伸べてき



RMITブンドラキャンパス Main building at RMIT University Bundoora campus

た。オーストラリアで再会できた感激を再び味わっていると、彼は仲間やクレイハンス先生の所へ案内してくれた。きれいな部屋に案内され、皆が揃ったところで、ブンドラ・キャンパスの学部長が私たち研修団の歓迎挨拶に訪れてくれた。クレイハンス先生やイングリッシュ先生に、日本伝統の「兜」が浜崎団長より贈られた。大学のキャンパス案内の後、私たちのために関係職員を交えて昼食会が開かれて、一同感激。そのとき撮影した記念写真は大学の新聞に掲載されるところのこと。

午後から再びキャンパス見学。解剖室や標本室、研究室、クリニック等を見て回った。その充実した施設には感嘆するばかりでした。ある実技の授業を見学した時は、テクニックのシティング・ロータリーサービカルを教えている最中で、私たちが習ったのと同じで、JCAの基本の正しさが証明された思いで自信を深

め、同時に「自分もこんな所で勉強できたらな」とも感じました。

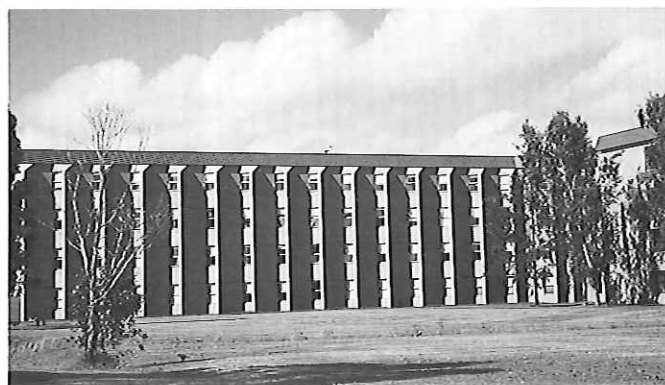
メルボルン市内やオークランドではRMITを卒業して開業中のドクターのオフィスを見学させてもらい、レントゲンや各種診断機器が揃い、オフィスには各種テクニックごとのカイロベッド等があり、充実した内容でした。保険診療もでき国民が安心して治療を受けられる等、日本とは余りに違いすぎ、羨ましく思いがしましたが、私たちの目標の一端を見たような気がしました。

オーストラリア、ニュージーランドは秋の気候でしたが、日中は暑いのにサラッとしていて北海道を感じ、治安の良さにも驚きながら、外国から日本を見ることの素晴らしさも経験しました。

(城 昌伸)

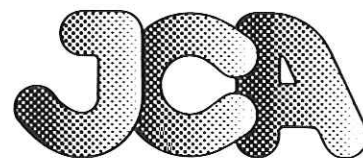


教職員の歓迎 Tour group was welcomed at RMIT campus



JCAの積極外交

JCA Active Diplomacy



JCAの第三代会長・竹谷内米雄氏は、業界人にめずらしい国際感覚の持ち主だった。欧米のカイロプラクターを積極的に招き、カイロの国際交流の先鞭をつけた。そして新聞を発行し海外のニュースを広めた。

第四代会長・竹谷内一恵氏も、JCAの国際化を旗印に積極的なカイロ外交を展開した。1970年代後半から1990年代にかけて、講演、研修、親善、研究、WFC活動と国際化の重要性はますます高まってゆく。



ナショナル大学訪問
From Lt to Rt: Drs. Beideman, Takeyachi, President Janse, Kleynhans, Jaskoviak at the National College



ACA定期大会
Dr. S. Elliot, Chairman of the Board of Governors of ACA invites Dr. Takeyachi to the Reception
パーティ参加

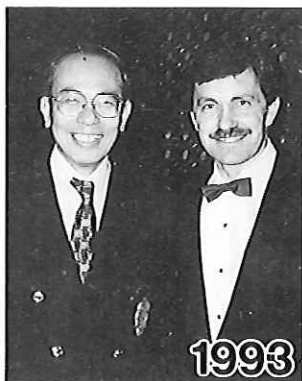


ナショナル大学でスピーチ Dr. K. Takeyachi lecturing at NCC



Dr. Takeyachi in discussion with Dr. Auerbach

WFCロンドン大会で
チャプマン・スミス事務総長と



Dr. Takeyachi meets with Mr. Chapman-Smith, WFC Secretary

1989

Dr. Jim Parker (center) greets Dr. Takeyachi and Dr. Benet-Canut of Mexico

パーカーセミナーに参加



1991



Dr. Takeyachi meets with executive staff of LACC. From Lt to Rt: Dr. Ching, President Reed Phillips, Vice President Alan Adams
ロサンゼルスカイロ大
研究スタッフと

ナショナルカイロ大学同窓会ツアーを歓迎

JCA welcomes National College Alumni Members to Tokyo 1984

On September 19, 1984, eighty-three members of National College alumni Association visited Japan. They arrived at the hotel where Drs. Janse and Arnold were giving seminars sponsored by the Japanese

Chiropractic Association. The JCA members greeted and hosted the tour members with friendship. It was a wonderful time for both parties. NCC Alumni group invited JCA officers in return.



It is Good to Have Good Friends From America



松葉屋に答礼招待

NCC Banquet at famous Geisha House, Matsubaya

ナショナル大学のアラムナイ(同窓会)メンバー約80名が来日。JCA役員・会員と親善交歓会を開いた。

